

オーダーメイド・プロジェクト グアテマラにおける女の子の教育支援プロジェクト概要

このプロジェクトは、グアテマラ、アルタ・ベラパス県で実施を予定しております。



■ グアテマラの基本データ

	グアテマラ	日本
5歳未満児死亡率（1000人当たり）	29	3
初等学校の最終学年まで在学する率（％）	75	100
中等学校の就学率（％）	47	－
早すぎる結婚（18歳までに結婚）（％）	30	－
20-24歳の女性のうち18歳前に出産した割合（％）	20	－

（「ユニセフ世界子供白書 2017」より）

■ プロジェクトの背景

中米最大の人口を有するグアテマラは、2012年以降、毎年3%以上のGDP成長率を示し（世界銀行 2016）、経済成長を続けているものの、富は都市部の富裕層に集中し、貧困率および貧困の地域・民族間格差は大きくなっています。アルタ・ベラパス県は80%以上の住民が先住民に属し、人口の78.8%が貧困状態です（ENCOVI 国民生活状況調査 2014）。

グアテマラでは、マチスモ（男性優位の考え方）という男性・男の子を優遇する文化が根強く、女の子は男の子に比べ、あらゆる場面で権利や機会に恵まれない傾向にあります。特に女の子の就学率は低く、アルタ・ベラパス県で中学校へ進学する生徒のうち37%が女

の子です（グアテマラ教育省 2018）。この背景には、貧困のため中学校で必要な物の費用が用意できないことや、親から学校に行くよりも家事や農作業の手伝い、他の仕事をすることを求められることなどが挙げられます。中等教育を受けられない女の子の将来の選択肢は少なく、早すぎる結婚や出産を強いられて自立する機会を奪われます。



山間部にコミュニティが点在し、家から中学校までの往復で数時間かかる子もいる。



勉強をする女子中学1年生



対象地の女の子たち

■ プロジェクト目標

本プロジェクトは、アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市の女子中学生へ奨学金を支給し、女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師へ女の子の教育の大切さ、早すぎる結婚の弊害などについて意識啓発を行うことにより、女子中学生の就学継続を目指します。

■ SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

SDGs とは： Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

2015年9月に国連の全加盟国193か国によって世界共通の目標として承認されました。2030年までに「誰も置き去りにせず、世界から貧困を根絶する」こと、そして「地球を持続可

能なものにする」ことを目指しています。17の目標と169のターゲットから構成され、教育、保健・衛生、ジェンダー平等をはじめ、気候変動への対応、生態系の保全、平和構築などを幅広くカバーし、包括的な内容となっています。

プラン・インターナショナルはSDGsに賛同し、その達成に貢献する活動をしています。本プロジェクトが貢献するのは下記の目標です。

目標4「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
目標5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」

■ 活動内容

- 女子中学生への奨学金支給（奨学金は学用品、制服、通学費などに使用されます）
- 女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師への意識啓発

■ 対象

アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市に住む女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師

■ プロジェクト実施期間

中学校は、1月に開始し10月に終了します。なお、活動地域、内容は現時点での予定です。自然災害・政情・物価や為替の変動などにより活動期間や活動内容が変更になる場合があります。その場合は速やかにご報告いたします。予めご了承ください。

■ 効果

このプロジェクトにより、アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市に住む女の子が奨学金を得て中学校で学ぶことができるようになり、女の子、保護者、コミュニティ・リーダー、教師の女の子の教育の重要性に関する意識が高まります。これにより、女の子の将来の職業や人生の選択肢が広がり、自分で将来を決定し生活を向上させることができます。また、女の子が進学することにより、早すぎる結婚や出産の減少が期待できます。

■ 持続性

奨学金を得た女の子が中学校を修了し、職業や今後の人生を自分で決定できることを、他の女の子に示すことにより、コミュニティでの女の子のロール・モデルとなることが期待できます。また、女子中学生の保護者、コミュニティ・リーダー、教師の女の子の教育の重要性に関する意識が高まることにより、今後のコミュニティ、学校での意識の変化も期待できます。

■ 実施方法

● 女子中学生への奨学金支給

奨学金を受給する女子中学生の選択は、コミュニティのボランティアやリーダーたちも参加して、家庭の経済状況、家から学校までの距離、保護者の教育への理解度などを考慮して行います。そして、教師が奨学金を受給した女子中学生の授業への出席状況、成績を確認します。もし問題があった場合は、家庭を訪問して問題解決のために女の子と保護者へ働きかけます。

● 女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師への意識啓発

女子中学生が奨学金を受給する前に、女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師に対して、女の子の進学的重要性、早すぎる結婚の弊害、女の子が学校を欠席する一要因である月経の衛生管理について意識啓発を行います。

■ プロジェクト予算

活動内容	予算 (円)
● 女子中学生への奨学金支給	2,280,000
● 女子中学生、保護者、コミュニティ・リーダー、教師への意識啓発 意識啓発活動、活動に必要な文具など	130,000
● 現地におけるプロジェクト管理及びモニタリング費 ・会計、人事、システム等に関わる経費、家賃光熱費、消耗品費など ・現地プロジェクト管理担当スタッフの人件費	990,000
● 日本におけるプロジェクト管理費 ・会計、人事、システム等に関わる経費、家賃光熱費、消耗品費など	600,000
合 計	4,000,000

■ プロジェクト成果のご報告

プロジェクト完了後、報告書を作成し、写真を添えてご報告いたします。

■ プロジェクトへのご支援

プロジェクトへのご支援は100万円より承ります。